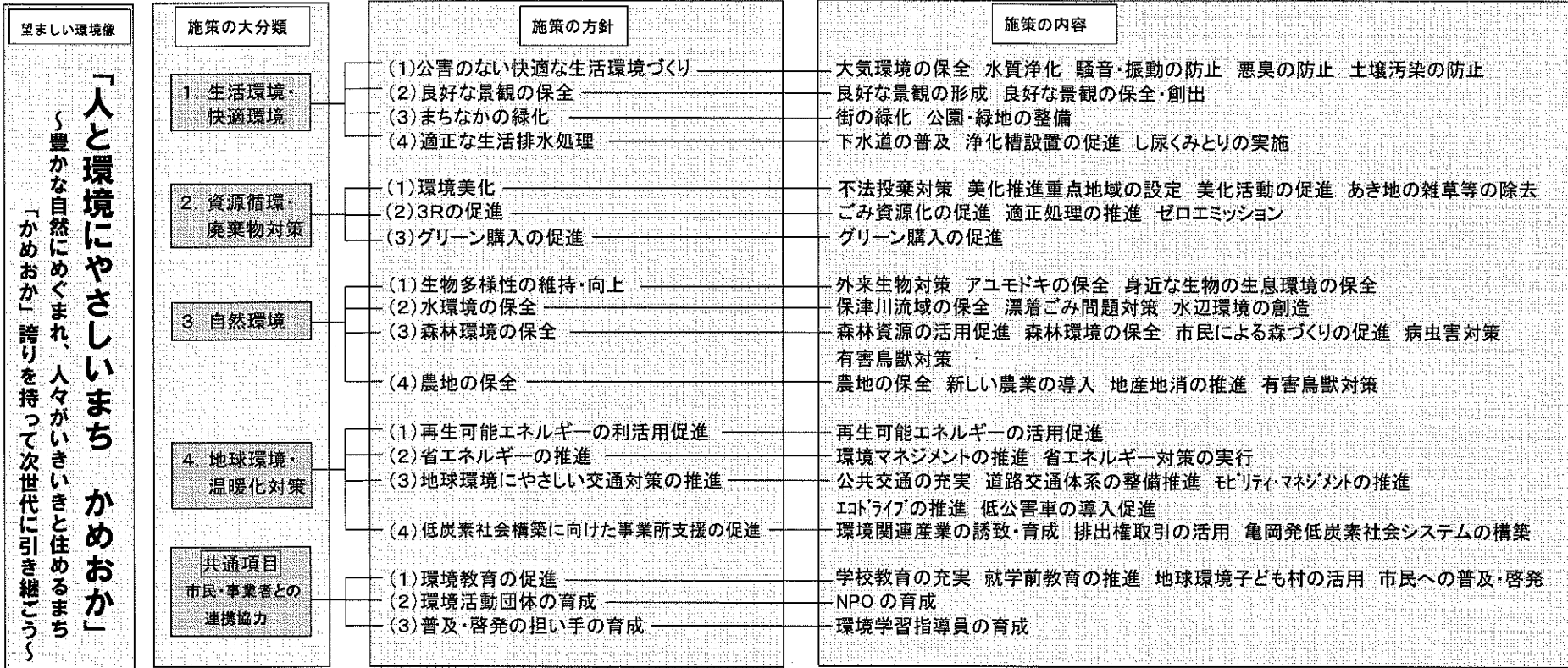


第2次亀岡市環境基本計画

取組状況報告書

平成25年度

施策の体系



1 生活環境・快適環境

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	公害のない 快適な生活 環境づくり	大気環境の 保全	京都府と連携して苦情等の対応を行った。
2		水質浄化	水質検査を実施した。(5、11月に35定点、7、9、1、3月に9定点)
			京都府と連携して苦情等の対応を行った。
3		騒音・振動の 防止	騒音測定を実施した。(昼間39箇所、夜間13箇所)
			公共工事において、低騒音・低排気ガスの重機の使用、低騒音・低振動工法を採用した。
4	悪臭の防止	必要に応じて関係機関と連携し、苦情等の対応を行った。	
5	土壌汚染の 防止	届出時に京都府と連携して、特定施設の関係法令順守の指導を行った。	
6	良好な景観 の保全	良好な景観 の形成	景観計画の策定、条例の制定に向け、自治会等と協議および啓発を行った。
7		良好な景観 の保全・創出	景観計画の策定、条例の制定に向け、自治会等と協議および啓発を行った。 亀岡市文化的景観検討委員会(2回) フォーラム・写真展の開催。普及啓発用冊子の発行を行った。
8	まちなかの 緑化	街の緑化	花と緑のフェスティバルの実施(来場者数約15,000人)
			花づくりコンクールの実施(参加数:保育所(園)11箇所、小学校17箇所、中学校8箇所)
			自治会等が行うわがまち花づくり事業に補助金を交付した(19自治会)
			みどりのカーテンモデルの実施(参加校:公立の保育所3箇所、私立の保育園3箇所、小学校4箇所)
9		公園・緑地の 整備	都市公園(35箇所)、開発公園(149箇所)
10		下水道の普 及	計画的に管路整備を行った。(整備面積:6ha)
			下水道の水洗化率:84.6%
			下水道フェスティバルを開催した。
11	適正な生活 排水処理	浄化槽設置 の促進	設置補助金を交付した。(申請件数16件) 浄化槽設置の推進地域において組回覧を行った。(2回) 市補助金の上乗せにより普及拡大に努めた。
			12
若宮工場(し尿処理施設)で適正処理を行った。			

2 資源循環・廃棄物対策

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	環境美化	不法投棄対策	専任監視員、業務委託によるパトロールの実施。監視カメラ(2台)の設置による監視。
			不法投棄防止に向け民間事業者等と協定を締結し、監視体制を強化した。 (環境事業公社からの情報提供7件)
			警察との連携による監視パトロールの強化及び行為者の特定による再発防止。 (不法投棄行為者の検挙3件)
			森林保安監視員(巡視員2名)によるパトロールの実施。
2	美化推進重点地域の設定	川～海プロジェクトが定めた「保津川の日」の関連事業を支援し、保津川地域を美化推進重点地域に新規に指定する素地づくりに努めた。	
3	美化活動の促進	関係自治会、企業、学校等の参加による美化推進重点地域の一斉清掃。(年2回)	
		清掃用具の貸与。(120団体)	
4	あき地の雑草等の除去	雑草パトロールによる不適正箇所への指導。(年2回)	
5	3Rの促進	ごみの資源化の促進	スプレー缶、ライターの分別収集を実施し、リサイクルの推進を図った。
			プラスチック製容器包装の分別収集開始などにより、ごみの資源化が進み、埋立てごみの量が減ることが予想されること、また、高齢のかたなどが集積場へ運んでいただきやすくするため、小容量の埋立てごみ袋(15リットル)を追加した。
			環境フェスタで環境ポスター、標語、川柳コンクールの表彰及び展示した。街頭啓発を実施した。
			公共工事の発注において、設計図書(特記仕様書等)に明記し、再生資源の利用等に努めた。
6	適正処理の推進	桜塚クリーンセンターの1号炉整備改良工事を完了した。	
		ごみ収集の際に、不適正排出に対して啓発シールを貼り啓発した。	
		公共工事の発注において、設計図書(特記仕様書等)に明記し、廃棄物の適正処理に努めた。	
7	ゼロエミッション	環境マネジメントシステムを運用し、紙ごみの再利用に取り組んだ。	
8	グリーン購入の促進	グリーン購入の促進	市役所におけるエコ・グリーン製品等の購入の推進に努めた。
			亀岡市ホームページを活用し、優れた取組みを実施している企業等の紹介を行った。

3 自然環境

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	生物多様性の維持・向上	外来生物対策	市の防除計画に基づき、市が所有する捕獲オリを自治会や個人に貸し出して、アライグマ、ヌートリアを捕獲した。(捕獲実績:アライグマ78頭、ヌートリア1頭) アユモドキの保全のため外来魚駆除大会(年2回)を実施した。
2		アユモドキの保全	亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会(年2回)を開催。 環境フェスタ等で保護増殖活動を報告し、啓発冊子等を作成し配布した。 ファブリダム立ち上げ時や、中干しに伴う水路渇水時にアユモドキの救出作業を実施した。 文化資料館で、小中学生の夏休み時期に合わせて7月20日～9月1日にアユモドキ飼育展示を開催した。 都市計画公園「京都・亀岡保津川公園」(仮称)内に、アユモドキのサンクチュアリとなる共生ゾーンを整備する検討を始めた。
3		身近な生物の生息環境の保全	環境フェスタで、身近な魚類や外来生物について学べるブースを設置した。
4		保津川流域の保全	「川と海つながり共創プロジェクト」の漂着ごみ発生抑制対策の取り組みとして、清掃活動や子どもたちへの環境教育を実施した。 河川愛護月間の啓発事業(懸垂幕・広報誌への掲載等)を実施した。
5		水環境の保全	漂着ごみ問題対策
6	森林環境の保全	水辺環境の創造	保津川かわまちづくり推進協議会を開催し、整備計画の策定を行った。 ワーキング会議を(1グループで4回)開催した。 また、グループ長会議を開催した。
7		森林資源の活用促進	搬出による間伐材の資源活用の推進は未着手。 バイオマス利活用の研究の推進は未着手。 亀岡カーボンマイナスプロジェクトを推進し、大学との連携して放棄竹材を炭堆肥とするクールベジダブルに取り組んだ。
8		森林環境の保全	豪雨による林道災害の復旧工事を実施した。 京都府と連携して林地開発の適切な指導を行った。府と合同でパトロールを実施した。
9		市民による森づくりの促進	市内4地区でフィールドワークを実施し、市や森林組合、地元関係者でモデルフォレスト活動に協力した。
10	病虫害対策	森林病虫害防除事業による伐倒駆除・樹幹注入等作業を森林組合に委託し実施した。	
11	有害鳥獣対策	有害鳥獣防護柵を設置した。(設置延長:8,825m)(亀岡市有害鳥獣対策協議会事業) 亀岡猟友会に委託し有害鳥獣を捕獲した。(捕獲頭数:420頭)	

3 自然環境

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
12		農地の保全	国営緊急農地再編整備事業着手に向けて、事業計画の策定及び土地改良法手続きを開始した。
			農地・水・保管理支払交付金における活動組織の窓口として事業の適正管理を支援した。
			中山間地域等直接支払制度に取り組む17集落協定に交付金を交付した。
			認定農業者数は、法認定70名、地域認定27名の計97名となった。
13	農地の保全	新しい農業の導入	エコファーマー数は、121件(2法人、121名)となった。 また、エコファーマーロゴマークの作成経費等に対して助成を行った。
14		地産地消の推進	小中学校での食農学習推進事業の実施した。(13小学校、2中学校) 夏休みを利用した直売所見学・親子料理教室を実施した。
			農業体験の機会を提供する農業塾の実施(全7講座)、市民農園の開設支援を行った。
			コミュニティレストランを通じた地産地消の推進(開設日数:232日)
15		有害鳥獣対策	有害鳥獣防護柵を設置した。(設置延長8,825m)(亀岡市有害鳥獣対策協議会事業) 亀岡猟友会に委託し有害鳥獣を捕獲した。(捕獲頭数:420頭)

4 地球環境・温暖化対策

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	再生可能エネルギーの利活用促進	再生可能エネルギーの利活用促進	住宅用太陽光発電システム補助金を交付した。 (平成25年度実績245件、補助金額13,417千円、公称最大出力 1,088.13KW) 京都府避難施設等緊急時電力確保促進事業補助金を活用し、南つつじヶ丘コミュニティセンターに10KW、亀岡市立病院に5kwの太陽光発電設備設置の申請を行った。
2	省エネルギーの推進	環境マネジメントの推進	環境マネジメントシステムを運用し温室効果ガス排出量の削減に努めた。 ※ 平成25年度の温室効果ガス排出量は、24,892,016kg。(平成21年度比3.6%の減少、平成24年度比9.2%の減少。) 亀岡商工会議所が中心となって、ISOの個別相談を行い、商工会議所のホームページを通じてエコ検定受験の推進を行った。
3		省エネルギー対策の実行	みどりのカーテンモデル事業を公立の保育所3箇所、私立の保育園3箇所、小学校4箇所で行った。 ライトダウンinかめおかを花火大開8月7日(水)と環境フェスタ10月5日(土)にあわせて実施した。 環境マネジメントの運用を通じて、各公共施設の省エネルギー対策を促進した。
4	地球環境にやさしい交通対策の推進	公共交通の充実	平成25年度乗車人数(コミュニティバス98,302人、ふるさとバス137,540人)は平成24年度と比較して増加した。
5		道路交通体系の整備推進	都市計画街路(1路線)を整備した。 道路事業(11路線)を実施した。
6		モビリティ・マネジメントの推進	市内小学校(川東、大井、南つつじヶ丘小学校)において交通環境学習を実施した。 庁内掲示板によるエコ通勤促進の呼びかけや、「エコ通勤ニュース」の掲載を行った。
7		エコドライブの推進	庁内掲示板により、エコドライブの啓発を職員向けに行った。
8		低公害車の導入促進	公用車の更新にあわせ、低公害車を7台購入した。(軽自動車2台、軽貨物自動車5台)
9	低炭素社会構築に向けた事業所支援の促進	環境関連産業の誘致・育成	新たな工業用地の確保に向け、関係機関と連携し、用地情報の発信、土地利用転換についての協議を行った。 ものづくり産業振興会議を開催し、事業関係者との連携・推進体制づくり及び支援を行った。
10		排出量取引の活用	京都版CO2排出量取引制度について市ホームページで紹介した。
11		亀岡発低炭素社会システムの構築	4者協定(立命館大学、龍谷大学、京都学園大学、亀岡市)に基づく調査研究の継続、市内2店舗でクルベジ販売継続、その他、水車サミット・城陽市環境フォーラム・京都環境フェスティバルにてクルベジ販売、学校給食へのクルベジ提供 等

(共通事項) 市民・事業者との連携協力

太字…昨年度と変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1		学校教育の充実	地球環境こども村での環境学習の実施(来村事業:6団体、1,008名)
			桜塚クリーンセンター等の施設見学の実施(18小学校の4年生(860人))
			ふるさと亀岡の歴史・文化・自然への愛着や興味・関心を高める一環として、中学校ブロックを中心にまとめを行った。
2	環境教育の促進	就学前教育の充実	各保育所等で、みどりのカーテンや花・野菜の栽培を通じて児童に環境教育を行った。
			各保育所等で、視聴覚教材を活用して児童に「自然や環境の大切さ」、「物を大切にす精神」を啓発した。
3		地球環境子ども村の活用	亀岡生き物大学の開催(7月～3月9回) 初級コース40名、中級コース11名、上級コース9名 計60名
			学校・地域連携事業の開催(26回)
4		市民への普及・啓発	環境フェスタを10月5日(土)にガレリアかめおかで開催した。
			図書館で環境関連図書を購入し、各館で紹介・展示を行った。
5	環境活動団体の育成	NPOの育成	継続事業の制度改善を行ったほか、行政協働事業を新設した。
			NPOなどの各種団体と、親子講座「アユモドキ見守り隊」を7回共催。
6	普及・啓発の担い手の育成	環境学習指導員の育成	NPO法人 亀岡人と自然のネットワークや、丹波淡水魚研究会と連携し、アユモドキ生息状況等調査や外来魚駆除活動を実施した。
			亀岡生き物大学の事業を通じて、環境学習指導員の育成・確保に努めた。